

育連だより

<http://web-k.jp/ikuren/>

育連理事長の就任にあたって

理事長 小川 としこ



平成30年度の理事・評議員会で新井理事長の後任として就任致しましたガールスカウト川崎市連絡会の小川でございます。数年前より理事長は任期を定め、各団体の持ち回りでとの申し合わせにより今回お引き受けした次第です。

川崎市青少年育成連盟は昭和21年に発足し、現在は川崎市子ども会連盟・日本ボーイスカウト川崎地区協議会・ガールスカウト川崎市連絡会・川崎海洋少年団の4団体が活動しております。川崎市の支援も

頂きながら、青少年の主体性を尊重して多様な事業や奉仕活動を行う全国的にも稀有な団体です。

事業の一つである中高校生リーダー研修会の今年度のテーマが「平成最後の挑戦」に決定したと伺いました。昭和、平成、そして新しい年号に変わっても当連盟は子どもたちと共に成長を続けて行きます。竹に節があるように、しなやかに強く、です。

「子どもたちの健やかなる成長」と「社会に奉仕できる人になれるように」の願いのもとに老若男女のコミュニケーションをはかり、平成最後の理事長として一節ひとふしの成長のバトンをしっかりとつなく覚悟でございますので、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

幸区JLCたんぽぽです！

幸区子ども会連合会 和田 蓉子

こんにちは！幸区ジュニアリーダーズクラブたんぽぽの「てんちゃん」です。

ジュニアリーダーとは、川崎市にある子ども会所属の中学生・高校生のことをいいます。

私たち幸区のJLCの名称は「たんぽぽ」といいます。この名前には「花から綿毛となり、社会へ飛び立ち、輝かしい活躍をしてほしい」という思いと「太陽のもとで咲くたんぽぽのように、明るく楽しく活動をしていこう」という思いが込められています。

現在メンバーは38人で、学年に関係なくとても仲良しです！

私たちたんぽぽの活動は、5月の活動から始まります。6月からはリーダー研修も始まり、たくさんの小学生が参加するリー研では明るく楽しいレクをたくさん知っているたんぽぽは大人気でした。私たちもこの日のためにレクの練習や会議を

行ってきたので、参加者が楽しんで笑顔になってくれたことがとても嬉しかったです。なにより私たち自身が楽しんでいるので、次の活動が待ち遠しく、次に向けて頑張ろうというパワーをもらえます。

夏休みにはリーダー研修の八ヶ岳宿泊研修がありました。大きな行事のため、6月から準備を始めました。高校生が中心となり、キャンプファイヤーの事や三日間の動きを決めていきます。会議の回数は増え、様々なことで悩みましたが、私たちらしく協力して問題を解決し、参加者も私たちも楽しめる研修にできるようワクワクな気持ちで準備は進みました。

10月からも活動はたくさんあるので、夏までに得た経験を生かして、たんぽぽのみんなと元気に明るく頑張っていきたいと思います。



第27回ボルチモアー川崎交流派遣を終えて

日本ボーイスカウト川崎地区協議会 国際委員長 西角 恵輔

第27回ボルチモアー川崎ボーイスカウト交流派遣は、米国ボルチモアから11名のスカウトと5名の指導者を迎え、初めてボーイスカウトとガールスカウトの混成隊（ファニーベアキャンプ隊）を組んで、ホストファミリープログラムを始め様々な交流を行いました。同じスカウティングの理念の基、日米の参加者全員が心からの交流を実現し心に刻まれる二週間となりました。以下にスカウトの生の声を紹介いたします。



ファニーベアキャンプ (FBC) とホストファミリーを体験して

ボーイスカウト川崎第53団 久保田 耕平

僕は今回のFBCにあたって参加スカウトというだけでなく、ボルチモアスカウトのホストファミリーとしても参加させていただきました。

昨年、僕は川崎スカウト派遣隊としてボルチモアに行かせていただき、ホストファミリーの方々には大変お世話になりました。初めての海外で、違った言語の中で、どうコミュニケーションを取れば良いのか戸惑っている自分に積極的に話しかけてくださり、特にホストファミリーデーには、アメリカのスカウトショップなど、さまざまな場所に連れて行ってくれたりと色々な経験をさせていただきました。



今年のホストファミリーでは、去年の派遣を経てお世話になったスカウトのホストファミリーを受けもたせていただきました。その17日間は、ホストファミリーデーや富士登山を含め、ボルチモアのスカウトとの友好を深め有意義な時間を過ごすとともに、沢山の思い出を作ってもらったのではないかと思います。そしてそれは、このホームステイに際して関わりご協力いただいた全ての方々のおかげだと思います。

本当にありがとうございました。

ガールスカウト神奈川県第40団 福島 梨穂

私の家には同い年の女の子、Ileaがホームステイしました。初め、コミュニケーションはうまく取れませんでした。悪戦苦闘している中、母が知育菓子を買ってきてくれて、一緒に作りました。緊張も解け、楽しく二人で過ごすことが出来ました。普段友達と遊ぶように予定を立てて、原宿で遊んだりしました。楽しかったかをどう聞くか分からず聞けずにいると、彼女から「まだ帰りたくない」と呟いてくれて、満足してくれていたことが分かったし、それからは自分からも話しかけようと思いました。

観光している時や移動中、彼女は写真を撮ることが趣味でたくさん写真を撮っていました。渋谷のスクランブル交差点、寿司屋の板前さん、道路、シャッターの落書き、私たちにとっては普段生活の中で目にするものですが、彼女を驚かせるものであることに私も驚かされました。

発見したこと、楽しかったこと、後悔したこと、挙げればキリがありませんがすべて私にとって良い思い出です。

ボーイスカウト川崎第54団 荒木 幸陽

FBCを一言で表すなら「楽しかった」ただこの一言に尽きると思う。今回初参加の僕は、この二週間、刺激的な毎日を送った。富士登山から始まり、八ヶ岳少年自然の家での宿泊。そして、浅草や鎌倉といった観光名所をボルチモアのスカウトと訪れることができたのは、とても貴重な体験だった。特に浅草は東京在住の僕も一度も訪れたことがなかった場所だったため（いや、単に僕自身が出歩いていないだけかもしれないが）ボルチモアのスカウトと同じ気持ち、体験を得られたと思う。そんなFBCの中でも、とても印象的だった出来事は、浅草で見たみんなの浴衣姿もそうだが、八ヶ岳少年自然の家で国を超えて一緒に笑い、遊び、友達になれたことではないかと思う。ベーデン・パウエル卿が言っていたことだが、やはり国に限らず一緒に楽しむことが大事だ。そんなことを思えた二週間だった。

もし、興味を引かれたら是非一度でいいから参加して見てほしい。絶対楽しくて、貴重な体験になるはずだから。

ガールスカウト神奈川県第40団 松田 朱佳莉

今年からガールスカウトが初めて日米合同キャンプに参加することになり、その記念すべき第1回目に仲間として加わることができたのは、貴重な体験となりました。私が一番心に残っているのは、やはり富士登山です。高尾山以上の山には登ったことがなかったので前日までは不安もありましたが、いざ当日を迎えると不安は消え「絶対に登頂できる！」という気持ちで臨みました。

私の班は一番最後の出発でした。それに加えて私は体力がなく、速度がどんどん遅くなり、少し登っては休憩を繰り返し、とてもゆっくりでした。最後尾になっても一緒に登ってくださった医療の先生方や登山チームのサポートのおかげで、自分のペースをつかみ登頂できた事は自信に繋がり、感謝の気持ちでいっぱいです。

富士山頂で仲間とみた御来光は、今まで見た景色の中で一番感動し、鳥肌が立ちました。この体験は心の宝物となりました。また、集団で登ることの大変さも痛感しました。ガールスカウトのキャンプだけでは感じることでできない新しい発見が沢山あり、団に持ち帰り今後の活動にいかしていきたいです。



第23回関東地区連盟大会を八ヶ岳にて開催

川崎海洋少年団 藤田伸子

日本海洋少年団関東地区連盟大会が8月18日～19日に長野県にある藤沢市八ヶ岳野外体験教室で開催しました。

大会内容は藤沢団が中心となり、計画をしました。当初、藤沢市らしく江の島周辺の海で大会を開催しようと考えていましたが、2020年に開催する東京オリンピックのヨット競技の会場となるため、江の島周辺の海の利用が難しかったので、八ヶ岳にある藤沢市の施設を利用しました。標高1,500メートルで木々に囲まれた八ヶ岳の麓に集い、日頃の訓練を試す場、また友情の輪を広げる場としての大会です。

競技種目は手旗（個人・団体）競技、結索（個人・団体）競技の4種類です。

行われる競技の中から、結索（ロープワーク）の個人競技について説明をいたします。初等級（小学4年生）以上の団員は、課題の20種類の結び方を覚え、その中から競技開始直前に10種類の課題が出題されます。10分以内で10種類の結び方を結べなければなりません。すべてが正しい結び方であれば満点となり、賞状の授与があります。

日ごろから使い慣れた自分のロープを持ち、「はじめ」の合図で結ぶ棒があるところまで走り、得意な結び方から始めます。結び方が速い団員は5分くらいで結び終わり意気揚々と帰りますが、緊張してなかなか思い通りに結べない団員もいて、見ている

リーダーはやきもきした気持ちで応援をするしかありませんでした。

結索の個人競技の結果は、競技参加者の8割くらいの団員が満点賞を受賞することができました。日ごろの訓練の成果が現れたということでしょうか。

夜は、キャンプファイヤーで盛り上がり団員達の交流を図ることができ、友情をはぐくみ来年の全国大会につながる関東地区連盟大会となりました。



開会式



手旗



結索



キャンプファイヤー

花火大会の後始末

高津区子ども会連合会 藤原忠興

毎年恒例の川崎市制記念多摩川花火大会が東京都世田谷区と合同で、多摩川河川敷を挟んで行なわれている。今年は10月13日(土)に予定されている。

夏の夜空に打ち上がる花火12,000発（川崎市6,000発、世田谷区6,000発）に約20万人の観衆が大きな歓声とため息拍手で盛り上がり、深夜まで会場の観衆の声が聞こえます。

花火大会の興奮が冷めた翌日、河川敷に面した地域の子ども会は、朝7時から花火大会会場の後始末の清掃作業を行ないます。集合して手袋とゴミ袋を手に持ち河川敷の土手、道路、サッカー場、野球場と観衆が夜のひと時を楽しんだ花火観賞場所のゴミを拾います。

土手の草の中に捨てられた缶ビール・ペットボトル・食べ物容器等を拾ってゴミ袋一杯になります。「あったー」と子どもの興奮した大きな声、草むらから拾った財布には、お金やカード他が入っている事もあります。落し物として警察に届けますが、他に鍵・携帯電話等も毎年拾い届けています。

自分たちの町で実施され、目の前で打ち上げられた花火に酔いしれた観衆が帰った会場を清掃して、通常の私たちの多摩川に戻す後始末を毎年実施しています。



17 NSJに行って

日本ボーイスカウト川崎地区協議会 第17回日本スカウトジャンボリー 神奈川3隊 塩野 倫太郎

8月3日から8月10日までの一週間、石川県珠洲市で行われた第17回日本スカウトジャンボリーに参加した。この一週間のキャンプ生活で様々な事を体験出来たことを感謝したい。そしてこのジャンボリーで感じたことを3つ話していきたい。

1つめは隊について。隊としては日本一の班を決める結索の部門で、キツツキ班が見事1位になった。どの班も惜しいところまでいき日々の努力が報われたと思う。また一週間の生活の中で、快適なキャンプ生活を過ごせたと思う。テントの中は暑いので自らリンツ、またはハンモックで寝る者。厳しい暑さの中、工夫して生活出来たことは今後の自信につながると思う。食事は自分たちの団ではあまりしたことのない隊炊事だった。各班が日替わりで交代してやっていた。隊炊事なので時間等遅れてしまうと隊全体に迷惑がかかってしまう。しかし、ほとんど遅れはなく、とてもおいしい食事をとることができた。食事のおいしさが充実したキャンプ生活に繋がっていたと感じている。また、今回3人のインドネシアスカウトと共にサイトで過ごした。日本人とは違う宗教、文化を近い距離で感じることができた。

2つ目は自分について。私はジャンボリーとしては2回目の参加となった。第23回世界スカウトジャンボリーの時、中学2年生だった時とは違うことを吸収できた。インドネシアスカウトとの英会話、全国のスカウトとの交流をすることが出来た。どれも自分にとって、とてもいい刺激になった。また、私は神奈川代表として皇太子殿下と昼食を共にすることができた。貴重な経験ができて嬉しく思う。

3つめは感謝について。こんなに楽しく、様々な体験、経験をさせてくれたのは、両親、引率して下さった指導者の方、仲間、川崎43団育成会の皆さま、地区、県連盟の皆さまのおかげであり、今後はこの経験を無駄にせず、ボーイスカウト活動に精進していこうと思います。



ガールスカウトの日 ～ありがとうの輪を広げよう～

ガールスカウト神奈川県第48団



5月20日、ユニセフ・ラブウォーク in かわさきが生田緑地で行われ、私達ガールスカウトとその家族やお友達も参加。午後から今年は「そなえよつねに」をテーマに「災害救助犬ソナエちゃん出動!!」スカウト、リーダーがソナエちゃん家族に扮して赤色服に白いテープで十字を張り、緑のチーフ、手作りの犬の耳をつけ、スカウトや一般の方を呼びこみ、寸劇を行いました。

急に具合が悪くなり倒れた人がいたら救急車を呼び、到着前にAEDキットを使って電気ショックをする体験では、簡易AEDを初めて見るお友達も一生懸命実践し、何回も体験する人もいました。また、転んで頭を怪我した人にストッキングで応急処置、腕には傘袋に保冷剤を入れて氷のうを作り、冷やしました。2枚のバスタオルで簡易担架を作り、実際に運ぶ体験もしました。だれでもがとっさの時にできる応急処置を学び、体験をしました。

今年は自然災害も多く、どんな事態が起こった時にもそれに対処できるように準備をしておくことが大切だと感じた有意義な1日となりました。



「子ども110番」を知っていますか？

子どもたちが登下校時や公園、広場などで不審者に声をかけられたり、つきまとわれたりして、危険にまきこまれそうになった時、子どもたちを安全に保護し、関係先に連絡していただける民家や商店、事業所などを「子ども110番」と呼んでいます。川崎市では、ドラえもんステッカーがついているところが協力施設となっています。

(問合せ) 川崎市子ども未来局青少年支援室

電話 044-200-2669・FAX 044-200-3931

発行 川崎市青少年育成連盟
事務局 〒213-0001 高津区溝口1-6-10
生活文化会館(てくのかわさき) 3階
TEL 044-811-2125 FAX 044-811-2126

青少年団体への加入申し込み、お問い合わせは、
川崎市青少年育成連盟事務局へ

印刷 有限会社 アキプリント社